


Autodesk の考える建設業の未来

オートデスク株式会社 技術営業本部
中須賀 淳貴

Analysis

Augmentation

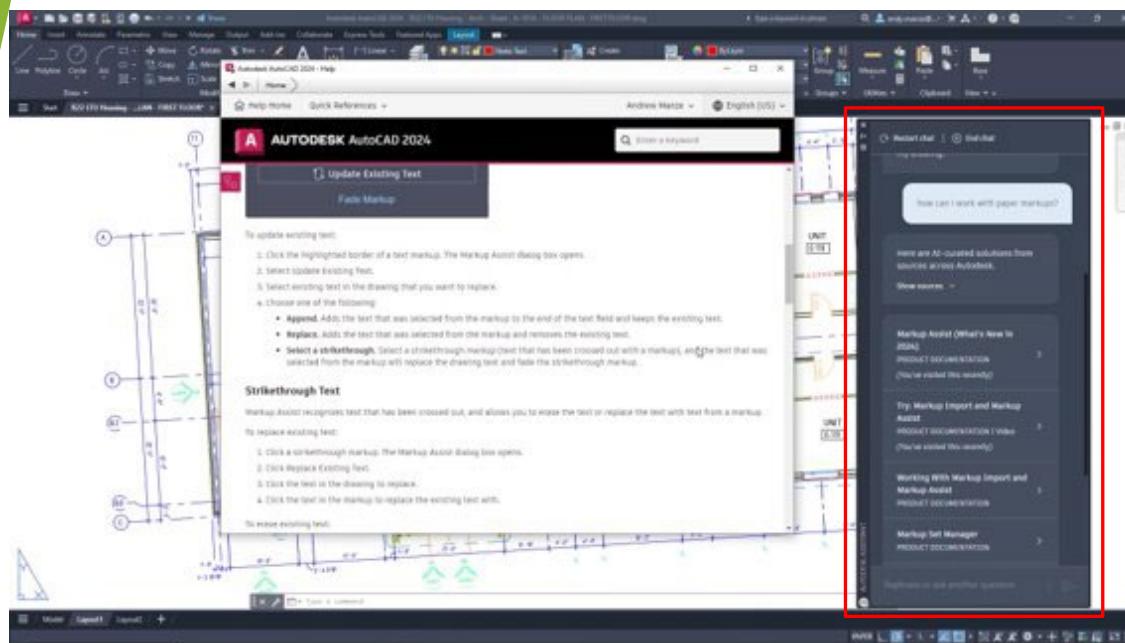
Automation

 **AUTODESK AI**



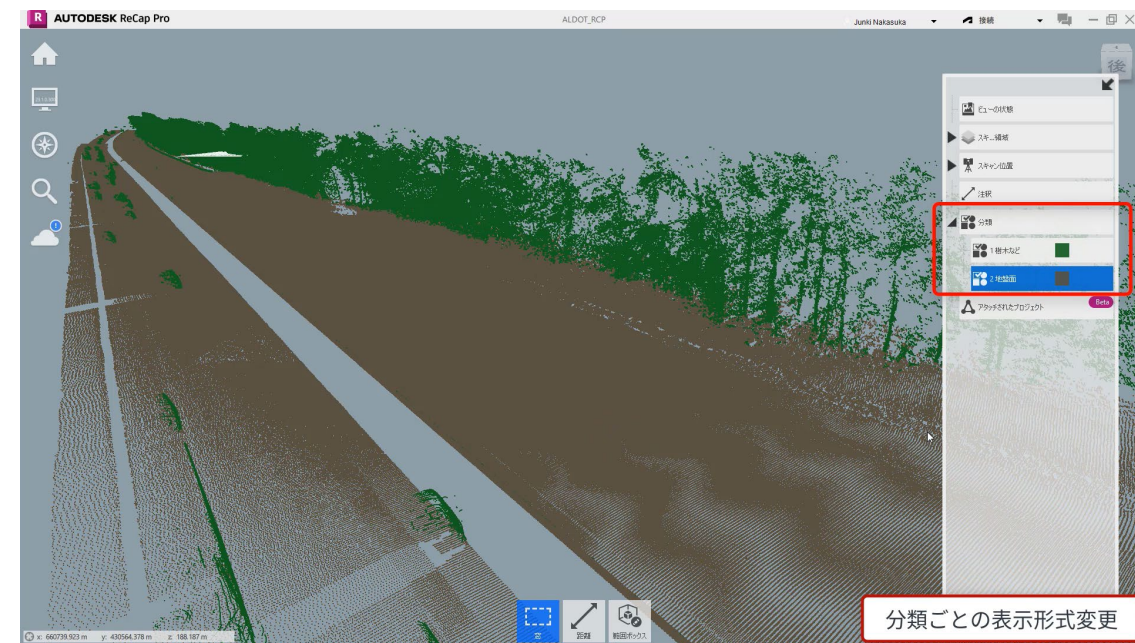
身近な AI の登場場面

AutoCAD – Autodesk Assist



チャットボックス内で質問すると、
関連するサポートドキュメントを回答

ReCap Pro – 地盤の自動分類



ReCap Pro 上で地盤と地盤以外の
点群の自動分類が可能に

AI 活用への意識

ビジネスリーダー

66 %

2-3年でAIがビジネスの
重要な要素となる

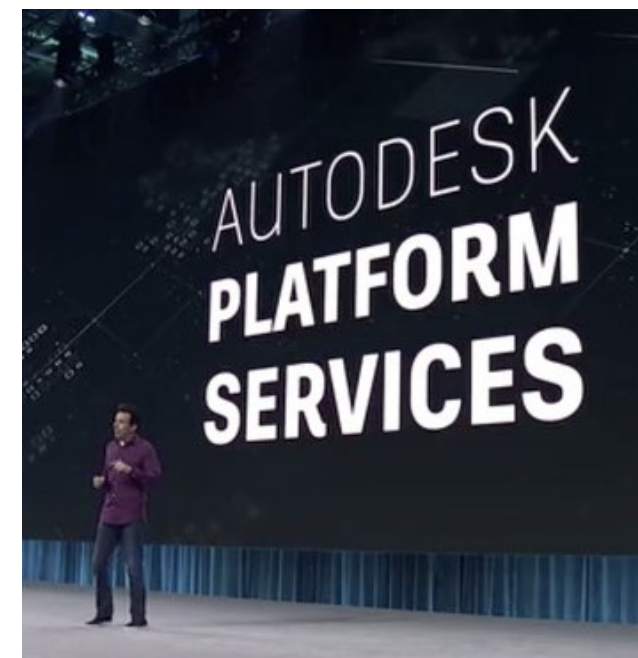
会社・企業

77 %

AIへの投資を強化する

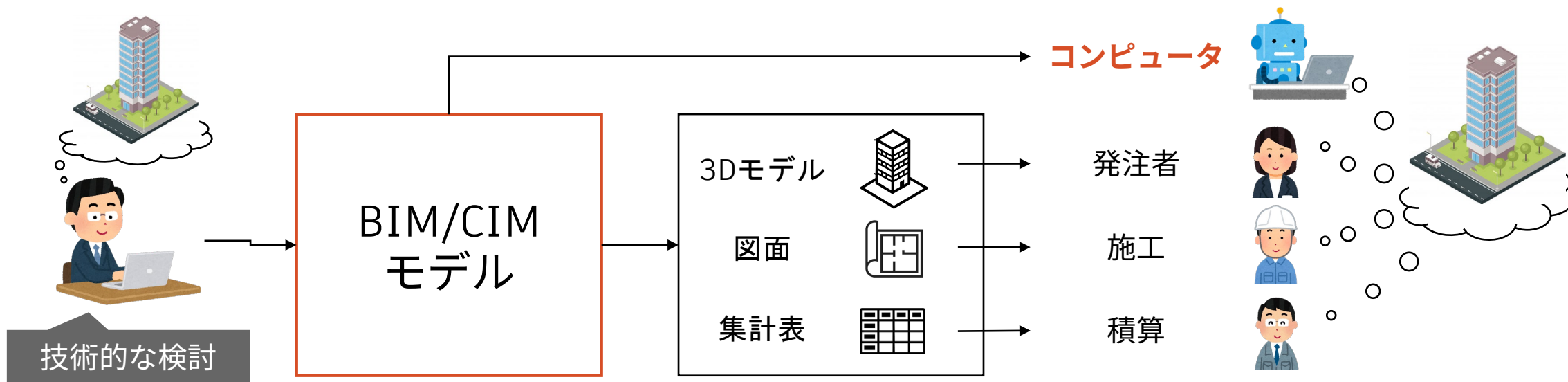
AI のポイントは“プラットフォーム”

- AI のための“学習データ”が必要
- “学習データ”を蓄積するための“プラットフォーム”が重要
- Autodesk は“プラットフォーム”にも投資



BIM/CIM は AI 活用の重要なステップ

- AI で学習できるデータは“**コンピュータが理解できる**”ものだけ
- BIM/CIM は設計情報等を“**コンピュータが理解できる**”ようにしたもの
- コンピュータが理解できれば、コンピュータに仕事を任せられる = DX



コンピュータの働き方の変革



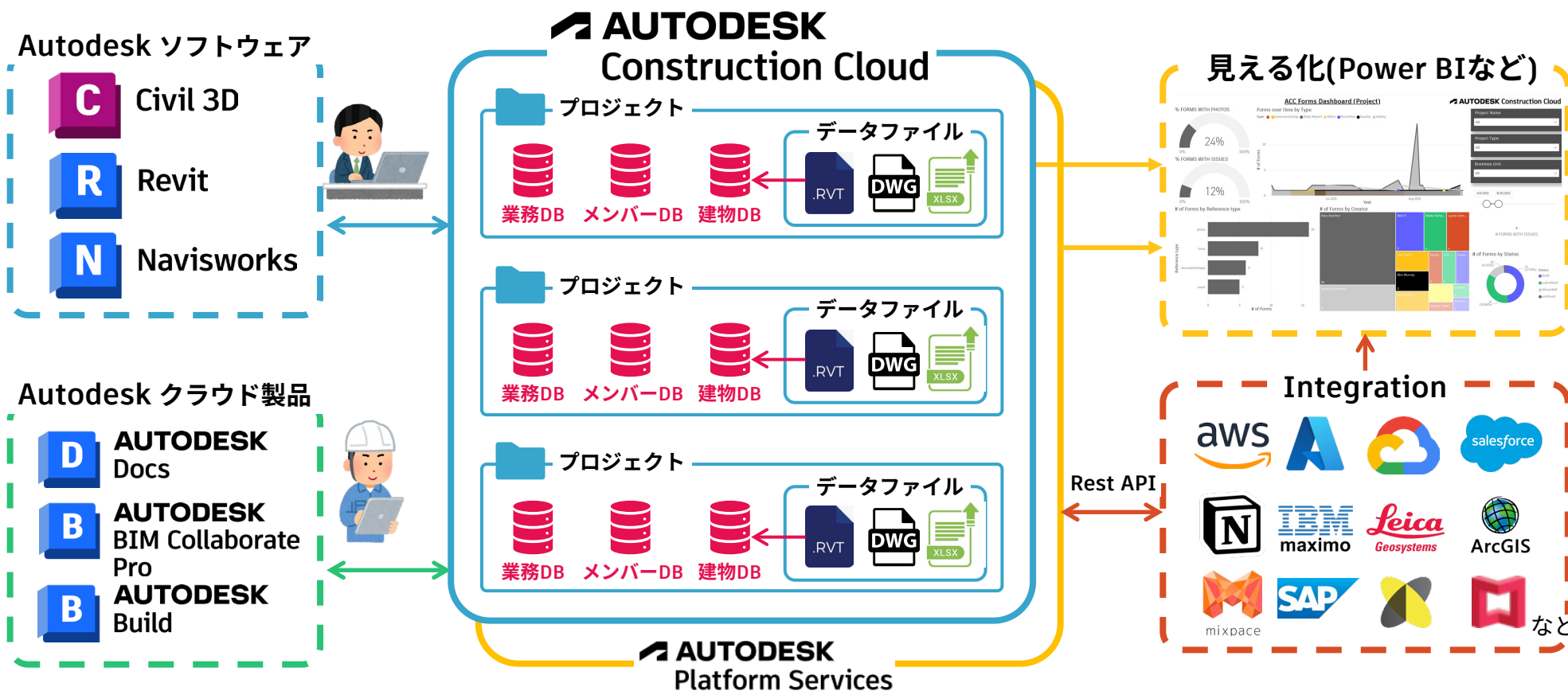
コンピュータが扱うデータが**限定的**
=コンピュータを“**道具**”として利用

コンピュータが扱うデータが**広範囲**
=コンピュータを“**同僚**”として利用

[内閣府作成]

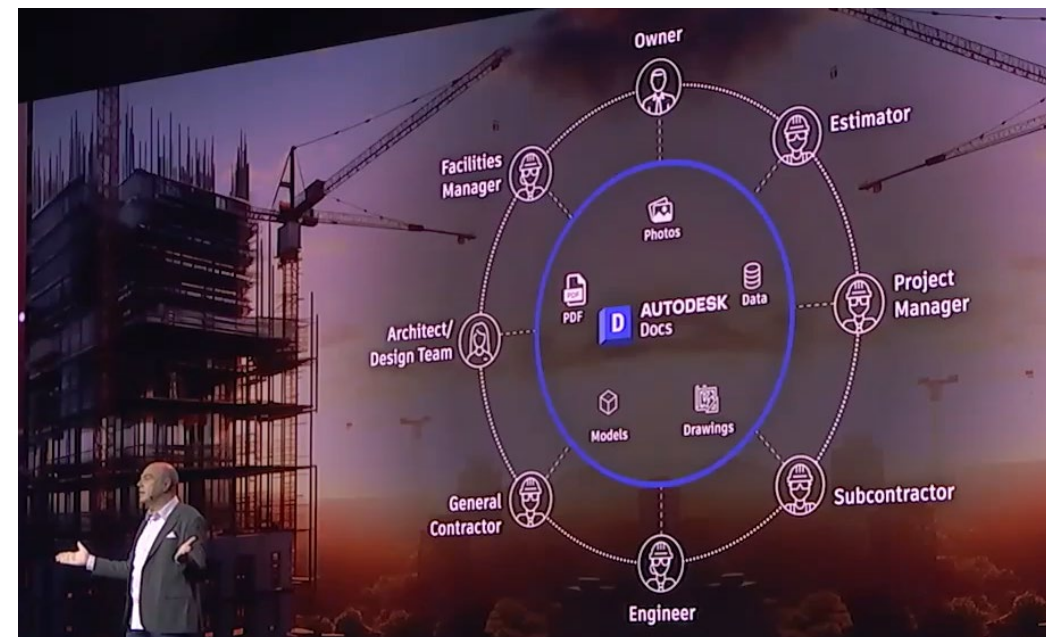
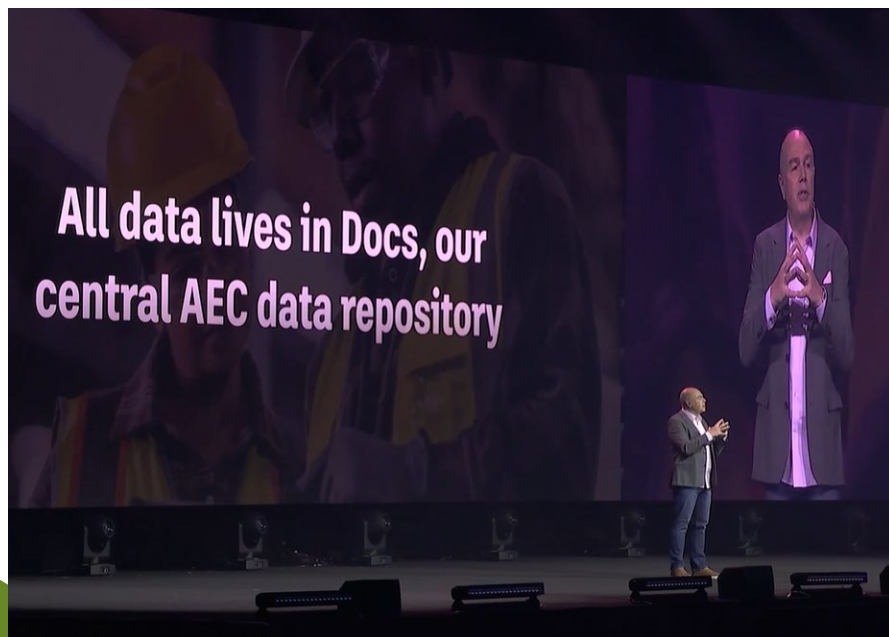
プラットフォームとしての Autodesk Construction Cloud

- プロジェクトの様々な情報を“コンピュータが理解できる”形で管理



プラットフォームとしての Autodesk Construction Cloud

- オブジェクトレベルに細分化：全てのデータを同列に扱える
- アプリとは切り離され、アプリ間/チーム間を自由に移動可能
- 既存・将来のアプリを全て Docs と接続しデータ管理、Autodesk AI による新たな価値の提供も可能に



国土交通省 DX アクションプラン

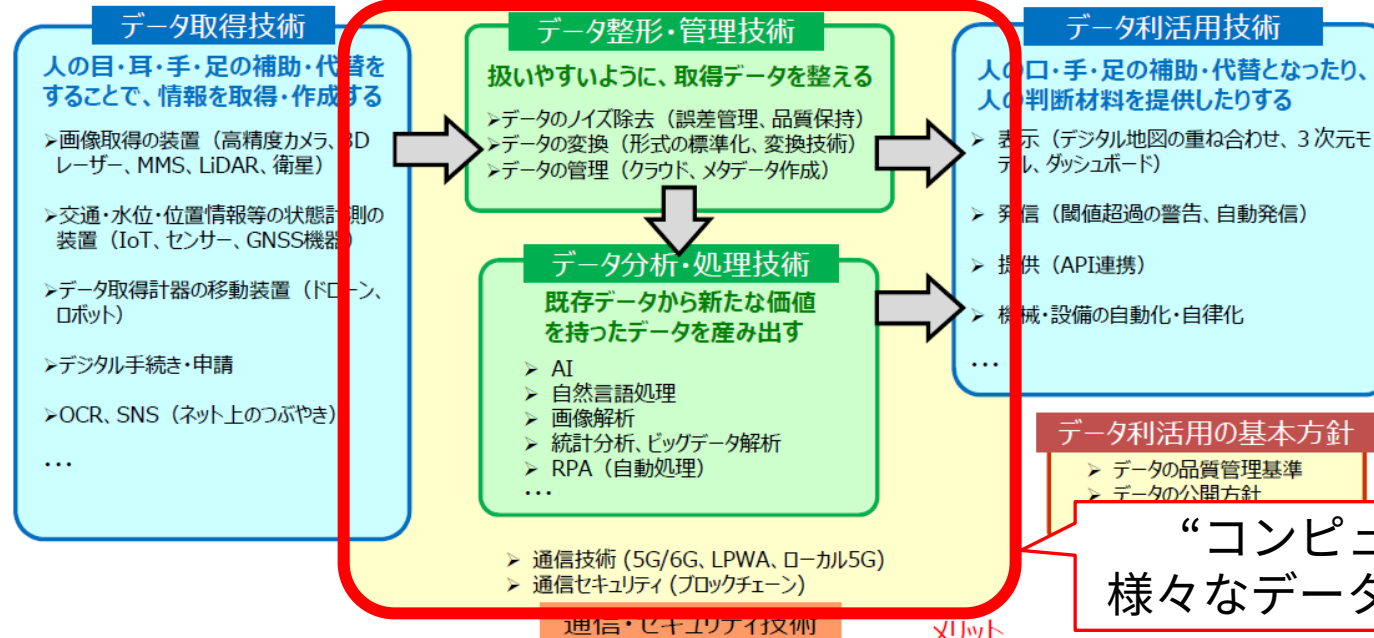
インフラ分野のDXを進めるためのアプローチ

「デジタル技術」の知識・経験を共有する

ヒト・モノ・コト → サイバー空間

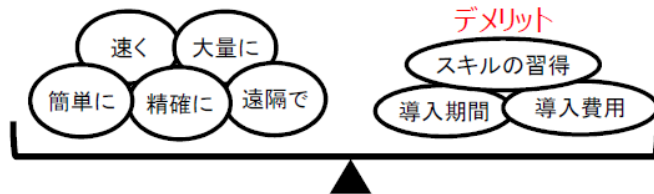
サイバー空間の内部のみ

サイバー空間 → ヒト・モノ・コト



“コンピュータが理解できる”
様々なデータを蓄積することが重要

デジタル技術導入によって「できること」と、それを実現するために要するスキルの習得、時間、費用等とを比較することにより、それぞれの施策にとって最適なデジタル技術を選択する



インフラDX推進本部（事務局）に **D**igital の知識・経験を集積し、省内の各部局と共有

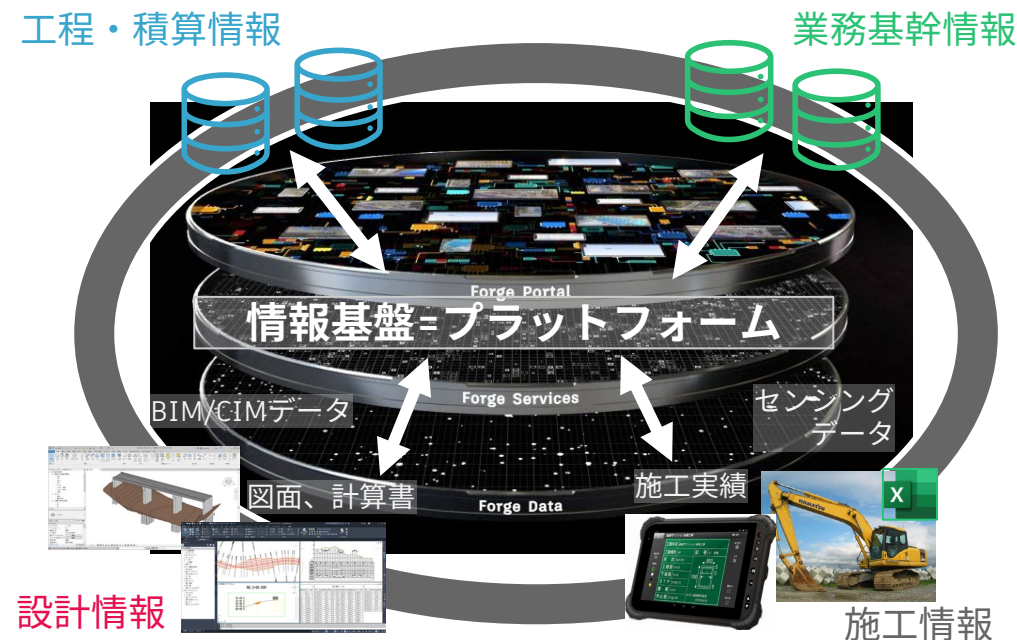
BIM/CIM の本質は「3次元」から「データ」へ

これまでの BIM/CIM のイメージ



Modeling > Management
 「3次元モデルがあるといろいろできる」

これからの BIM/CIM のイメージ



Management > Modeling
 「データがあるといろいろできる」

Autodesk 製品のご紹介

- AEC Collection で「データ」活用をはじめましょう！

クラウドソリューション

AUTODESK Platform Services

AUTODESK Construction Cloud

B AUTODESK
BIM Collaborate

B AUTODESK
Build

B AUTODESK
BIM Collaborate
Pro

D AUTODESK
Docs



Architecture Engineering & Construction Collection

A AUTODESK
AutoCAD

C AUTODESK
Civil 3D

R AUTODESK
Revit



I AUTODESK
InfraWorks

N AUTODESK
Navisworks

R AUTODESK
ReCap

3 AUTODESK
3ds Max

I AUTODESK
Inventor

C AUTODESK
CFD

デスクトップソリューション